

令和4年度

事業計画及び収支予算書
～地域とともに観光推進を～

一般社団法人 あまがさき観光局

事業計画 ～地域とともに観光推進を～

I 主旨

一般社団法人あまがさき観光局は、平成30年3月26日設立以降、地域の魅力と価値の向上や交流人口の増加、都市イメージの転換を目指し、尼崎ならではの観光地域づくりを実現すべく取組を進めてきた。

平成31年3月29日の尼崎城一般公開を契機として、各種情報発信、国内外へのプロモーション、重点取組地域におけるにぎわい創出イベントなどを実施した。また、令和元年10月には観光取組に係るプラットフォームとして、地域の観光関係者やアドバイザー等による「尼崎市観光地域づくり推進会議」を設立し、WiFiパケットセンサーによる周遊等データや関係者の取組状況等の共有に努めた。同じく令和元年10月に(公社)大阪観光局の賛助会員となるなど、大阪経済圏のメリットを活かしつつ連携を深めているところである。

この結果、観光関係者、地元関係者とのパイプは構築できつつあるが、令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により観光取組においては非常に厳しい局面が続いている。

このような状況下において、アフターコロナを見据え、大阪・関西万博が開催される2025年までの期間における、あまがさき観光局の具体的な事業の方向性を整理したロードマップを令和3年度作成した。令和4年度はこのロードマップのもと、観光局がより地域とともに、観光地域づくりに取り組むべく、①ステークホルダーとのより一層の連携、②魅力ある観光情報の提供や効果的な発信、③尼崎らしいコンテンツの創出や発掘といった来街促進につながる取組、④(公社)大阪観光局との連携深化「ほぼ大阪」の推進、をテーマに「尼崎らしい」地域観光推進に取り組んでいく。

1 実施事業会計

(1) 観光地経営事業

観光地域づくりの取組を戦略的に進めていくためには、多様な関係者の巻き込みや目的等の共有、科学的アプローチ、官民一体となった仕組みづくりなどが必要である。

そのために観光局が関係者からの信頼・信用を得て「地域観光推進の核」として地域全体の収益向上を図るべく、地域の消費傾向や行動傾向の把握、プラットフォームのさらなる展開などを進める。

また、引き続き、観光局自身も市からの補助金以外の運営資金の確保に向けた検討を行っていく。

① データマーケティングに基づく事業推進

ア. オンラインによる戦略的な情報発信

公式 HP、SNS (Twitter,instagram) での情報発信に注力するとともに、その取組成果について、専門事業者とともに AIT や GA を活用し、定期的に分析を行う。また、オンライン施策 (HP の PV 数、SNS のリーチ数など) とオフライン施策 (イベント参加数など) をつなげて分析することで、観光マーケティングの基盤を担う。

イ. 観光動態調査等

一定規模の来尼者が見込まれる集客イベントについて、来尼者の属性、観光消費額、満足度等を把握するため、(公財) 尼崎地域産業活性化機構とともに WEB による観光動態調査を実施する。また、Wi-Fi パケットセンサー解析システムを用い、イベント時などの域内の人流について把握する。

② 組織づくり

日本版 DMO の登録にかかる諸要件を踏まえ、尼崎の地域の特性に相応しい、観光マネジメントができる体制の構築をめざす。なお、日本版 DMO の登録については、国の登録要件の厳格化等の動きも踏まえ、引き続き検討する。

③ WEBマーケティングの実施

あまがさき観光局公式観光サイトにおけるWEBマーケティングツールを使った分析を進め、分析結果やそれに基づく課題、改善策等を関係者で共有するとともに、効果的なプロモーション施策を展開していく。

④ 専門人材の確保等

専門人材の確保については、その求める業務・スキル (専門性) 等を勘案し、一般的な雇用だけでなく、民間事業者や団体からの出向、有期での契約、外部委託等ニーズにあったあらゆる手法を活用する。

令和4年度は、民間採用の事業部長、商工会議所から出向の事業課長に加え、あらたに、WEBマーケティングや観光プロモーションに精通した人財を確保する。

⑤ その他

- ・関西観光の際の立ち寄り地として選ばれるよう、旅行事業者等のニーズに沿った観光コンテンツの造成や発掘を行うとともにセールスを行う。
- ・コロナ禍により開催を見合わせていた観光地域づくり推進会議の開催
- ・お城 EXPO 2022 への出展

⑥ 観光動向調査

イベント開催時など効果的な機を捉えて、観光消費額やリピーター率等の調査を行う。さらに、Wi-Fi パケットセンサー解析システム等のデータ、WEBマーケティングの結果等の分析も含め、誘客に向けた来訪者の動向把握に取り組む。

⑦ 地域の事業者や団体など関係者のプラットフォーム強化

尼崎市観光地域づくり推進会議（5回開催予定）のほか、観光施設関係者や宿泊事業者との会議体、各種実行委員会等を通じ、関係者との連携を深め実効性の高い取組を進める。

⑧ 「ほぼ大阪」を意識したプロモーション事業の展開

ウィズコロナにおける観光需要の変化を意識しつつ、「ほぼ大阪」という立地や交通至便な特性を活かし、尼崎ならではの地域の魅力を発信していくため、効果的なイベントへの出展や（公社）大阪観光局と連携できる取組（大阪・関西万博関連等）を進めていく。

⑨ 土産物認証制度

令和4年度からは、地域にある“尼らしい”魅力ある土産物を発掘するため、土産物認証制度に取り組む。

<予算>	経常収益	22,164千円
	尼崎市補助金収入	22,164千円
	経常費用	22,164千円
	事業費	6,664千円
	人件費	15,500千円

当期経常増減額 0千円

(2) にぎわい創出事業

重点取組地域である阪神尼崎駅周辺には、尼崎城をはじめ、歴史博物館、寺町や商店街、中央公園、文化発信拠点である総合文化センター等の多様な地域資源が存在する。その核となる尼崎城の魅力アップを図るとともに、周辺の地域資源を活かしての周遊性の向上や尼崎ならではの観光商品の開発などを行い、尼崎での滞在時間を延ばすとともに、これまで以上に消費の機会を創出する。

① 尼崎城入城者促進につながる取組

市や尼崎城指定管理者と連携し、本市のシンボルである尼崎城の来城促進につながる取組を実施する。

- ・尼崎城指定管理者と連携した尼崎城における企画展の実施
- ・お城ファンが集う展示会への出展（お城 EXPO 等）

② 賑わいをもたらすコンテンツや観光コースの創出・発掘

JRDC（2023夏）や大阪・関西万博（2025）をにらみつつ、尼崎市への誘客をはかることのできる、魅力あるコンテンツや観光コースの創出・発掘に、事業者や市と連携して取り組む。

- ・デジタル化された古地図を活用した歴史歩き
- ・カメラ女子ツアー

- ・城下町尼崎の歴史を生かしたプランの造成（尼崎城御膳など）
 - ・尼崎運河を生かしたプランの造成（運河クルーズなど）
 - ・収穫体験、工場夜景、工場見学、銭湯など
- ③ 地域や事業者と連携したにぎわい創出（イベントコミッション）
- 地域や事業者が中心となり、観光局と連携しながら、地域の魅力を継続的、定期的に発信し、かつ周遊を促すイベントの実施・実現に取り組む。

さらに、尼崎といえば「〇〇」と言われるような、広域からも誘客できるイベントについて企画・実施する。

令和4年度：あまがさき城下町フェスティバル、コスプレイベント等

④ 広域事業連携

近隣の3城（大阪城、尼崎城、岸和田城）及び関係する市・観光組織が参加する「大阪・尼崎・岸和田 参城キャンペーン」において、お城や城下町の魅力をともに発信し、誘客や周遊促進を図る。

また、尼崎市と連携協定を締結している岐阜県大垣市・郡上市や、全国城郭管理者協議会加盟団体と協同して、プロモーション協力や広域イベント等相互の連携を図る。

<予算>	経常収益	8,519 千円	
	尼崎市補助金収入	8,519 千円	
	経常費用	8,519 千円	
	事業費	8,519 千円	
	当期経常増減額	0 千円	

(3) 観光情報発信事業

ユーザー側のさまざまなニーズに対応した情報発信を推進する。例えば、ユーザーがいかにか早く、簡単に求める情報にたどり着けるか、誰にとって有益な情報か、いつ届ける情報かなど、媒体ごとの役割分担を明確にし、細かな施策を数多く展開することでユーザーの手元まで情報が届くことを強く意識した取組を展開する。

① あまがさき観光局公式観光サイト（HP）の運営

(1)①イに記載のホームページについて、分析結果等に基づき、ユーザーの視点に立ったわかりやすい情報発信に取り組む。

② 食をテーマとした情報発信

尼崎市全体が食堂であるとのコンセプトのもと、気軽で多様な尼崎の食情報を「#尼崎食堂」として、HP や SNS（instagram・Twitter）を通じて拡散を図ってきた。さらに令和4年度では、来訪者や飲食店自身がグルメ情報を拡散できる仕組みづくりを行うと

もに、市内ホテルと連携し、宿泊者向けの食情報発信をあわせて行う。

③ 多様な媒体の活用による情報発信

HP や SNS (instagram・Twitter) を通じた情報発信のほか、交通広告や感度の高い雑誌への掲載、各種パンフレット作成などターゲット層に的確に訴求できる媒体を活用して、尼崎の来訪促進を図る。

④ ホテルと連携したプロモーションの展開

「大阪」に来られる観光客やビジネスマンを取り込むべく、「ほぼ大阪」という立地、交通至便の優位性を活かし、尼崎での宿泊促進を市内ホテルと連携して行うことで、宿泊における関西一帯へのハブを目指す。

- ・ホテルごとに特色あるプランの展開
- ・WEBサイトでの情報発信

⑤ 施設や地域団体等との連携

総合文化センターや歴史博物館、尼信会館といった各施設に加え、尼崎商工会議所や(公財)尼崎地域産業活性化機構といった地域に根差した団体等と連携を密にすることにより、より効果的なプロモーションを展開する。

⑥ あまがさき観光案内所の運営

阪神尼崎駅北側の中央公園にあるあまがさき観光案内所(以下「観光案内所」という。)、JR 尼崎駅構内の観光案内コーナーについて、引き続き好立地を活かした情報発信等機能強化を図る。

また、観光案内所について、観光案内業務、地域特産物等の販売、ボランティアガイドの受付などの「観光案内」機能に留まらず、周遊の拠点として活用するとともに、観光客だけでなく、市民でも立ち寄りたくなる楽しい空間づくり、機能の充実を進めていく。

令和4年度

- ・スタッフによる観光情報発信力の向上、写真等を用いた魅力発信、地域産業のPR、お土産もの充実
- ・尼の逸品、尼子騒兵衛ピクチャーコレクションなどのコーナーの充実
- ・定期イベントの開催(マルシェ、ウィンド装飾等ワークショップ)など

< 予算 >	経常収益	38,757 千円
	尼崎市補助金収入	38,757 千円
	経常費用	38,757 千円
	事業費	38,757 千円
	当期経常増減額	0 千円

2 その他会計

(1) 観光案内所事業

観光案内所の運営について事業者（令和3年度はアクティオ株式会社）へ委託、物産等販売額の5%を収入し、その収入をもって、観光案内所の機能、魅力の充実を図る。

また、運営事業者との連携を強化し、観光案内所としての魅力・機能の向上に加え、令和3年度から定期的に取り組んでいるマルシェイベントの充実を図る。

<予算>	経常収益	432 千円
	自主事業収入	432 千円（物産品等小売販売取扱収入）
	経常費用	432 千円
	事業費	432 千円（イベント開催費・消耗品）
	当期経常増減額	0 千円

(2) 物産品等卸売販売事業

「尼らしさ」を軸とした商品を尼崎の魅力発信ツールと位置づけ、地域の事業者等と協力して新商品開発を行う。また、大規模イベントの開催時などに、そのイベントの来訪者に訴求する新規商品を企画し販売する。加えて、新たな販売チャンネルについても、引き続き検討していく。

<予算>	経常収益	4,950 千円
	自主事業収入	4,950 千円（物産品等卸売販売収入）
	経常費用	4,950 千円
	商品仕入・外注費	4,079 千円
	事業費	871 千円（イベント開催費・消耗品）
	当期経常増減額	0 千円

(3) 自転車駐車場事業

阪神尼崎駅周辺の不法駐輪対策や環境浄化活動として、路上自転車駐車場（自転車用 499 台、原付用 18 台、自動二輪車用 16 台）を運営している。今後も阪神尼崎駅周辺の不法駐輪対策や環境浄化活動に積極的に寄与するとともに、来街者等への利便性・快適性の向上に努める。

<予算>	経常収益	4,046 千円
	自主事業収入	4,046 千円（自転車駐車場利用料収入）

経常費用	4,046 千円
賃借料	1,446 千円 (道路占用料)
事業費	11 千円 (消耗品)
人件費	2,589 千円 (事務補助職員人件費)
当期経常増減額	0 千円

3 法人会計

(1) 法人運営事業

当法人の活動が、市内外からの来訪者や消費需要を呼び込み、市内事業者の事業活動へ繋ぎ経済波及効果をもたらし、地域の稼ぐ力を高めていくための取組となるよう、関係団体との連携を図り、円滑な事業運営に努める。

また、観光局機能を最大限に発揮できる人材の充実を図り、地域に信頼される組織を目指す。

<予算>	経常収益	13,849 千円
	尼崎市補助金収入	13,848 千円
	雑収益	1 千円 (預金利息)
	経常費用	13,849 千円
	管理費	5,193 千円 (事務所運営経費)
	人件費	8,656 千円 (役員等人件費)
	当期経常増減額	0 千円

収支予算書（正味財産増減予算書）

令和04年04月01日 から 令和05年03月31日 まで

（単位：円）

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収入	9,428,000	9,307,000	121,000
自主事業収入	9,428,000	9,307,000	121,000
補助金収入	83,288,000	83,590,000	△302,000
尼崎市補助金収入	83,288,000	83,590,000	△302,000
雑収益	1,000	1,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	92,717,000	92,898,000	△181,000
(2) 経常費用			
事業費	78,868,000	79,037,000	△169,000
商品仕入・外注費	4,079,000	3,081,000	998,000
職員給料手当	7,944,000	7,944,000	0
会計年度任用職員給料手当	2,269,000	2,269,000	0
法定福利費	1,586,000	1,609,000	△23,000
福利厚生費	26,000	26,000	0
旅費交通費	600,000	0	600,000
通信運搬費	202,000	202,000	0
業務委託費	44,738,000	48,096,000	△3,358,000
消耗什器備品費	0	500,000	△500,000
消耗品費	570,000	1,336,000	△766,000
印刷製本費	1,095,000	1,050,000	45,000
光熱水費	174,000	174,000	0
賃借料	1,857,000	1,698,000	159,000
広告料	7,700,000	6,000,000	1,700,000
諸謝金	728,000	552,000	176,000
支払負担金	5,300,000	4,500,000	800,000
管理費	13,849,000	13,861,000	△12,000
役員報酬	7,391,000	7,391,000	0
法定福利費	1,234,000	1,247,000	△13,000
福利厚生費	31,000	31,000	0
通信運搬費	649,000	649,000	0
業務委託費	174,000	174,000	0
消耗什器備品費	200,000	200,000	0
消耗品費	156,000	156,000	0
燃料費	6,000	5,000	1,000
光熱水費	155,000	155,000	0
賃借料	2,928,000	2,928,000	0
保険料	129,000	129,000	0
諸謝金	396,000	396,000	0
雑費	215,000	215,000	0
租税公課	92,000	92,000	0
支払手数料	93,000	93,000	0
経常費用計	92,717,000	92,898,000	△181,000
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 基金増減の部			
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	0	0	0
基金期末残高	0	0	0
IV 正味財産期末残高	0	0	0

